

# 諏訪地方の経済概況速報

平成25年1月

(平成24年12月末調査)

平成25年1月25日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫  
経営相談室

<http://www.suwashinkin.co.jp>

TEL 0266(23)4567

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【 11月】	諏訪公共職業安定所管内	0.78 倍	△0.01 ポイント	
手形交換高【 12月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	5,602 枚	△1,136 枚	
	金 額	7,188 百万円	△1,286 百万円	
	うち不渡り	枚 数	5 枚	5 枚
	発生状況	金 額	2,084 千円	2,084 千円
電力使用量【 12月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	66,520 MWh	13.9 %	
	高圧電力計	92,960 MWh	△3.3 %	
	合 計	159,480 MWh	3.2 %	
車庫証明取扱件数【 12月】(諏訪地方合計)		796 件	3.0 %	
新設住宅着工戸数【H24.4月～11月】(諏訪管内)		738 戸	△4.3 %	

□本文は、当金庫の取引先約 130 社へのヒアリング調査による取りまとめ。

## 地域の概況

12 月は円安、株高の動きとなった日本経済に対し、諏訪地域の企業はさまざまな受け止め方をしている。足元は総じて厳しい状況が続いているが、輸出貨物量が増加するなど先行きの期待感も現れてきた。暖冬予想から一転して厳寒となり、多くのスキー場は例年より開業を早めたが、12 月 2 日発生の中央道笹子トンネルの天井板崩落事故が影響を及ぼした。商業はボーナスが減少し、野菜や灯油価格が上昇する中でのクリスマス、年末年始商戦となった。建設業は新築やリフォームの需要が増える動きが出ている。茅野市や諏訪市で計画されているメガソーラーは、事業者が具体的な動きを始めている。

### ●製造

自動車部品関連の下請企業の足元の受注は、ハイブリット車向けは比較的堅調だが、メーカーや加工内容、単価によってばらつきが見られる。親企業の動きで先行きが不透明な企業がある反面、12 月を底として回復を見込む企業もある。プリント基板関連は総じて低調に推移し、受注減が続くプリンター関連では、これまで単価を下げ受注量を確保していた企業から、これ以上の引き下げは限界とする声が出ている。工作機械などの産業設備は、米国向けは比較的堅調な一方、中国向けでは低調が続いているが、引き合いがあり、動きが出てきたと見る企業もある。レンズ加工は業界全体の受注が減少し、見積もり金額も低くなっている。医療機器関連は安定した推移となっている。

### ●商業

諏訪地方の 12 月の天候は、原村で 1995 年以来、12 月として最も低い最低気温を記録するなど寒気の影響を受け、下旬の積雪もあり、冬物衣料や除雪関連用品の売上が伸びた。消費者の節約志向が強まる中で、リンゴがお歳暮商品として好調で、大型店では値下げして売り出されたブリの売

上も伸びた。サービスエリアやドライブインはトンネル事故の影響を受けた。昔からの習慣が薄れ、年末年始用品の売上は年々減少傾向で、手軽なものに移る傾向となっている。岡谷市ではスーパーマーケットの新たな出店計画が浮上した。

自動車販売は、諏訪地方の12月の車庫証明件数(軽自動車除く)が796台と、前月比で57台減少(△6.7%)しているが、前年同月比では23台の増加(3.0%)だった。軽自動車の売上は引き続き堅調だった。

## ●観光業

上諏訪温泉の宿泊客数は、昨年好調、衆院選、トンネル事故の影響で、前年同月比80%台の施設が多い。トンネル事故の影響で利用客数が総体で前年同期比10%以上減少したと見られる。蓼科・白樺湖などの高原の観光地は、トンネル事故の影響でスキー客減少がある上、宿泊施設では燃料代など冬場の経費がかさみ、収益を圧迫している。各地で冬場の誘客に向け、周辺施設と連携したスタンプラリーやマップ作成、イルミネーションイベントなどの動きがあった。諏訪大社の12月の参拝者数は約26千人で、前年同月比約8千人減少(△25.2%)した。二年参りを含む三が日の人出は約337千人だった。

## ●建設業

市町村の12月の発注工事は、土木工事・下水道工事26件、建築工事1件、その他工事13件の合計40件220百万円で、前年同月比で件数は13件、契約金額は70百万円の減少となった。県関係の12月の公共工事(地元業者受注分)は、大型事業の諏訪清陵高校附属中学校新校舎建築工事があり18件569百万円、前年同月比72.9%増となった。平成24年4月～12月の累計契約は142件3,407百万円で、前年同期累計比で件数は10件減少したが、契約金額は418百万円増加した。

民間工事は、諏訪地方の11月の新設住宅着工戸数が121戸と、前年同月比で45戸の増加(59.2%)となった。一般住宅の新築や増改築に動きが出ている。平成24年4月～11月までの累計着工戸数は738戸で、前年同期に比べ33戸の減少(△4.3%)となっている。長野県内の11月の新設住宅着工戸数は1,172戸で、前年同月比27.8%の増加となり、3ヶ月連続で増加した。

## ●雇用

諏訪地域の11月の有効求人倍率は、前年同月比0.01ポイント、前月比0.02ポイント減少して0.78倍となった。全国と長野県は、ともに0.80倍となっている。

諏訪地域の11月の新規求人(全数)は1,249人で前年同月比36人の減少(△2.8%)、新規求職者数は1,148人で前年同月比87人増加(8.2%)した。業種別の前年同月比の新規求人数は、建設業で65.6%、飲食店・宿泊業で33.7%増加したが、その他サービス業で44.7%、運輸業で38.0%減少した。11月の1件10人以上の人員整理はなかった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は111人で前年同月比37人、前月より26人それぞれ増加した。

## 業種別動向

### 1. 電気機械

プリント基板 プリンター	総体的には低調に推移している。 親企業の在庫調整で減産要請があり、受注減が続いている。回復は4月以降になる見込み。受注量は昨年同月比で大幅減の企業が多い。
コンタクター・ リレー	工場用非常電源装置の受注は全体的に横這い状況。素材価格が上昇し、別素材を検討する動きもある。

### 2. 輸送用機械

自動車	受注先や加工内容によって増減のばらつきがある。12月を底に年明けから受注増を見込む企業もある反面、見通し不透明な企業もある。収益性には厳しさを感じる企業が多い。
ピストンリング・ シリンダーライナー 船外機	欧州、韓国向けの受注が減少し、3月ごろまで続く見込み。北米では増産傾向となっている。 北米、欧州向けが低調で、東南アジア向けは好調。受注減少が続いていたが、一部に回復の兆しもある。

### 3. 一般機械

工作機械・専用機	大型の工作機械、専用機の受注は、中国や東南アジア向けの需要が鈍化傾向で、国内の設備投資は一進一退の動きになっている。
搬送用機械	食品、医療、物流などを中心に需要があり、堅調に推移している。
金型	医療機器部品などで好調な部分もあるが、総体的には低調。
ダイカスト	加工分野や受注先により増減まちまちとなっている。

### 4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	全国のデジタルスチルカメラの11月の生産台数は821万台で前月比14.7%の減少、前年同月比では12.3%の増加となった。1月からの累計では前年同期比10.8%の減少となっている。11月の出荷台数は国内出荷78万台、海外出荷724万台の合計802万台。前月比14.1%減少、前年同月比は2.1%減少となっている。 大手の生産計画が当初計画より大幅に下回り、海外工場の設備増強の動きもあり、地元企業への受注は減少傾向。見積もり金額も低く、1月以降の見通しも不透明となっている。
レンズ	コンパクトカメラがスマートフォンなどの影響を受け、レンズ加工も減少傾向となっている。特殊分野では受注が旺盛で、繁忙な企業もある。

## 5. 繊維

ニット

冬物量産が本格生産の最終時期だが、数量的に低下し、原料代は高値のまま固定化している。

## 6. 食品

寒天

卸しでは大口の取引先、和菓子、コンビニへの需要が減少しているが、観光施設での売上は順調に推移している。

味噌

原材料価格が高まり、収益を圧迫する傾向が続いている。

## 7. 製材

諏訪地方の11月の木造住宅着工戸数は100戸で、前年同月に比べ33戸の増加となり、やや動きが出ている。

## 8. 建設

公共工事

12月に地元業者が受注した県関係の公共工事は、諏訪建設事務所15件、施設課関係工事1件、林道治山工事関係2件の合計18件で、契約金額は569百万円となった。諏訪清陵高校附属中学校新校舎建築工事をはじめ、茅野市の災害復旧工事などがあつた。平成24年4月～12月の累計契約は142件3,407百万円と前年同期累計比で件数は10件減少、契約金額は418百万円の増加となった。

市町村の12月の発注工事は、建築工事1件3百万円、土木工事及び下水道工事26件152百万円、その他工事13件64百万円の合計40件、220百万円で、前年同月比で件数は13件減、契約金額は70百万円減少した。

民間工事

諏訪地方の11月の新設住宅着工戸数は121戸で、前年同月比では45戸の増加(59.2%)となった。前年同月比の利用関係別では、「持家」は4戸増加の72戸、「貸家」は43戸増加の45戸、「分譲」は1戸減少の4戸となった。平成24年4月～11月の累計は738戸で、前年同期累計に比べ33戸の減少(△4.3%)となった。利用関係別では「持家」が6戸増加(1.1%)したが、「分譲」は54戸減少(△58.7%)、「貸家」は15戸増加(14.4%)している。一般住宅の新築、増改築工事に動きが出ている。

また、長野県内の11月の新設住宅着工戸数は1,172戸で、前年同月比27.8%の増加となっている。なお、前年同月比の利用関係別では、「貸家」は312戸で102.6%の増加、「分譲」は119戸で4.4%の増加、「持家」が741戸で14.5%の増加となった。

## 9. 商業

衣料	厳寒と降雪で保温性のある衣料品の売れ行きが伸びた。成人式や就職活動向け衣料も動いた。
食料品	青果、野菜価格が高騰したが、水産物や肉は鍋関連で好調だった。笹子トンネル事故はサービスエリアやドライブインなどに直接的な影響があった。
家電製品	太陽光発電システムへの関心が高く、LEDへの変更傾向も続いている。以前と習慣が変わり、電化製品交換など年末に限った動きは少なくなった。
自動車	エコカー補助金終了の影響がある中で、燃費性能が良いハイブリットをはじめ、価格や維持費が安い軽自動車は好調に推移している。
ホームセンター	降雪が早く、週末に降ったことから、雪かき用具や塩カルが売れ、正月を迎えるための鏡餅やスチームクリーナーも好調だった。

## 10. 観光

上諏訪温泉	好調だった昨年の反動や衆院選、中央道トンネル事故の影響で、多くの旅館が前年を下回った。長期化によるイメージダウンが懸念されている。
蓼科・白樺湖・車山等	首都圏ナンバーの車が減り、スキーやスノーボード客が減少した施設が多い。客単価を引き下げた特別プランで集客を図る施設もある。
下諏訪温泉	個人客は施設によって増減があり、団体客は中央道トンネル事故でキャンセルがあった。新年会予約は低調気味。
諏訪大社	上社・下社合わせた12月の参拝者数は約26千人だった。二年参りを含む三が日の人出は約337千人で、前年比約16千人減少(△4.7%)した。

### ● 企業からのコメント

- ・ 円安だが、単価などの見直しは期待できず、下請けの部品業者がその恩恵を受けるのは、かなり先になると思われる。円安、株高は実態を伴った上昇ではないため、生産現場では景気回復の実感はない。新政権への期待はあるが、先行きは不透明。(金属加工業)
- ・ 輸出のウエイトが高いので、円安になって歓迎している。(専用機製造業)
- ・ 円安で主要取引先の財務内容が改善される。コストアップは望めないが、受注量の増加に期待する。(光学部品製造)
- ・ 円安になり、採算基準を考えて機を待っていた企業からの出荷があり、輸出貨物の量が増加した。(物流業)
- ・ 急激な円安は原材料輸入の際に実質値上げになるため、影響を注視する。(食料品卸業)
- ・ 政権交代し、補正予算で公共工事が長期的に出てくるのが期待されるが、当面今年度への影響は少ないのでは。(建設業)